

目指す学校像	希望と思いをやみをはぐくむ、寄り添いを大切にする美と活力の学校(学校教育目標) 新時代を見込み、力のある生徒・教職員・保護者・地域を目指して進化を続ける学校
--------	---

重点目標	1 基盤となる生活面の安定と学力の向上 2 安心・安全の保障と学校事故の防止 3 コミュニティスクールの活性化とスクールコミュニティの構築 4 教職員の資質の向上
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日令和5年2月22日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	● 現状 生徒数177名、反社会的問題行動はない。不登校や登校渋り等が散見される。総じて明るい生徒は多いが学年カラーは異なっている。学区が旧与野市よりも広く、地域・家庭の一面的な傾向を見出すのは難しい。小学校時代から継続的に見守り活動が行われている。 全国学力学習状況調査からは国語力の低迷が顕著である。数学は小学校から中学校1年生までの基礎学力の養成が強く求められる。 家庭学習の習慣化が求められている。 ● 課題 新たに「城南カフェ」を設置、多様な学習スタイルを模索、具現化する。 昨年度まで「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」について取り組んだ。この研究を進展させ、授業のあり方を探る。 語彙力と言葉の精査、文章の要約による内容の理解、読み取りからの思考、説明・解析の外化等について改善、向上を図る。 学校における基礎・基本内容の徹底と学び方の習得、それを発展させ家庭学習の習慣化を図る。	生徒指導の充実	① 予定調和と同調圧力と無縁な話し合い活動を強化する。学級活動と教科における話し合い活動を行い、目的意識と当事者意識をもった思考・活動を経験させる。 ② 観察等の情報に基づき生徒・学級の傾向を分析し、見直しをもった生徒指導を行うために学級経営案を作成、定期的な検証を行う。 ③ 生徒指導の充実のため、生徒指導委員会と教育相談部会は計画的に開催、活動し、組織的な対応を行う。	① 「協働的な学び」として位置付けた話し合い活動を学級活動で1本、自身の教科内で一単元あたり3本以上実施できたか。 ② 学級経営の状況について毎学期末に学年職員で検証を行ったか。 ③ 生徒指導委員会と教育相談部会は中心・指導的な立場で活動ができたか。 ④ 総合的に～生活面についての学校評価アンケートで生徒80%、保護者80%の肯定的回答。教職員による自己評価で80%の肯定的回答。				
		学習指導の充実	① 知識・理解の定着のために定期テストのやり直しを行なわせる。 ② 学校課題研修部会を中心として研究計画を立案、定期的に教科部会を実施して「単元個別進度学習」の取組を進める。 ③ 家庭学習に取り組めるように学習のあり方を提示、習慣化を図る。 ④ 城南カフェには計画的に人員を配置し、よりよいあり方を探る。	① 定期テストのやり直しを実施させ、結果を検証させたか。 ② 各教科で「単元内個別進度学習」を導入したか。探究的な学びを意識した授業を実践できたか。 ③ 家庭学習定着に向け提案をしたか。 ④ 総合的に～学習面についての学校評価アンケートで生徒80%、保護者80%の肯定的回答。教職員による自己評価で80%の肯定的回答。				
2	● 現状 施設・設備の安全点検を毎月行い、不良個所の発見と迅速な修理にあたっている。 体罰・暴言・不適切な指導は昨年度1件。保護者からの指摘を受けて、教職員の言動のあり方について特に本校全教職員に注意喚起を行った。 SNSに関わる生徒指導は5月末現在3件発生した。安全教室は年1回開催。 ● 課題 教職員の安全に対する意識・緊張感を常に持たせ、学校事故の根絶を図る。 生徒によるSNS利用について安全意識を高く持たせていじめ等の反社会的問題行動を未然に防止、生じた指導事項に丁寧に対応する。	教職員の安全に対する意識の向上と実践	① 安全点検を定期的実施し、併せて管理訪問型の点検を定例化する。 ② 会計事故防止のために、学年会計や部活動会計、公会計も含めて相互点検を実施、監査も定例化する。 ③ ハラスメント防止と不適切指導未然防止のための研修会を実施する。	① 月に1回の安全点検と学期に1回の管理訪問型の点検を行えたか。問題箇所への即応をしたか。 ② 会計事故の未然防止を具体的に、遺漏なく監査報告に至ったか。 ③ 職員会議等の機会に教職員事故防止のための研修を実施したか。				
		生徒を取り巻く環境の安心・安全の確保	① 特にSNS等に関わる生徒指導を未然防止するために、警察主導の安全教室」に加えて、弁護士招聘によるSNS安全教室を実施する。 ② いじめ等の未然防止のために、必要に応じた全校集会や学校だよりの情報発信や即時対応を行う。	① 警察主導の安全教室と弁護士を招聘してのSNS安全教室を実施したか。問題発生時に直ちに対応したか。 ② 多文化共生を意識した「いじめ防止」に取り組み、周知・徹底したか。突発的事象にも集即座に対応したか。案件の週越えは防ぐことができたか。				
3	● 現状 「花笑み教育」の取り組み元年である。年度当初人事では具体的ななはたらきかけが行われた。 PTAや自治会、青少年育成市民会議等は協力的で、応援が得られている。 学校からの情報発信ではホームページを活用。「花笑みだより」が現在は市教委が主導、発行。 ● 課題 学校運営協議会に生徒会役員も参加させ、理想の学校像や地域との関わり方を、熟議等で取り上げる。 「花笑み教育」の周知と具体的な内容の検討を行い、持続可能なものに仕上げる。	開かれた学校づくりに関する取組	① 学習指導や生徒指導、進路指導も含めたすべての活動を「花笑み教育」に紐付ける。小学校と連携しながら生活面・学習面の指導の継続と今後の持続性が担保できるようにする。 ② 保護者や地域の方々からの学校理解を深めていただき、関わりを多くするための取り組みを新たに創出する。 ③ 校区小学校との連携を強化する。 ④ 「花笑み教育」を含めた学校からの情報発信を積極的に行うため近隣小学校区や商業施設、公民館等に協力を要請する。	① 本紙上の諸活動と紐付けできたか。 ② 地域や保護者を対象に給食試食会や授業参観を実施できたか。学校運営協議会のあり方を検討課題とできたか。 ③ 三校長会を定例化できたか。兼務教員派遣により児童の把握と中学校紹介ができたか。生徒を含めた学校運営協議会の熟議が深まるように準備ができたか。 ④ 宣伝企画を立案、実施したか。 ⑤ 総合的に～「花笑み教育」についてのアンケート調査を実施し、保護者の80%、地域60%の肯定的回答				
4	● 現状 学級数が少ないため、一部教科は他校との兼務の教職員である。また本市での教職経験年数が浅い教員や年齢が若い教員が多い。 教職は多くが職場環境を肯定的に捉えている。 変化の大きい時代に適応できる「探究的な学び」を可能にする教員が求められている中、研修意欲の高い教職員が多い。 教職員の在校時間は他校に比べて短い。 ● 課題 「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」の研究に継続的に取り組む。 ICTの必要に応じた適切な活用をさいたま市DXや教育委員会のSSSP等と整合させる。 「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」の考え方を理解した上で個々の教職員のキャリアアップを図り、教師集団として力を発揮させる。	教職員の資質の向上に関する取組	① 現行指導要領及び文部科学省の令和答申の理解に基づく授業改善、次期指導要領を見据えた研究を行う。 ② 市教委、校区小学校、他中学校、外部機関等との連携により自己のスキルアップを図らせる。 ③ 教職員は「人間関係の専門家としての自覚の元、専門教科に加えてもう一本の強み(「生徒指導」「教育相談」「特別活動」の中から)主たる1本を選択させ、継続的・計画的に研修を進めさせる。 ④ 疲労回復と視野を広げるために、計画年休の取得を促進する。 ⑤ 年度当初面談や中間申告時を活用して各人の研修履歴を確認し、必要に応じたアドバイスを行う。	① 個々の教員が「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」に関わる「新たな授業スタイル」のあり方を計画的に実施、組織的に取り組ませたか。 ② 教育課程説明会、市教研を活かしたスキルアップが行えたか。他校の研究発表や授業参観を行ったか。 ③ 生徒指導部会や教育相談部会、ケース会議や校内研究を通じてスキルアップが行えたか。 ④ 学年内で話し合い、計画的な年休取得とその間の体験の共有を行えたか。 ⑤ 各教職員のキャリア段階に応じたアドバイスを行い、効果ある研修を受講させることができたか。 ⑥ 総合的に～自己の研修のあり方についてのアンケート調査を実施し、教職員による自己評価で肯定的な回答が全回等の内60%超				

